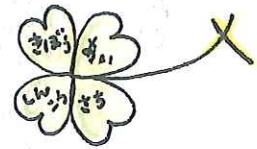


よき知らせ



Good News Vol.5

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。

その中で最も大なるものは、愛である。愛を追い求めなさい。」

新約聖書コリントの信徒への手紙第一12章13節、13章1節

「永遠の愛を追い求めましょう」

1900年代初頭に東京音楽学校の音楽教師であったロイテル氏が作曲した「四葉のクローバー」という歌をご存知でしょうか。昨年、恵那の「みんなで歌おう懐かしき日本の歌の会」と取り上げられていました。その中の歌詞で「四葉のクローバー、三つの葉は希望、信仰、愛情のしるし、残る一葉はさち」とあるのですが、この歌詞の元になっているのが、今日お読みしました聖書の言葉です。「愛の讃歌」と呼ばれる、聖書の中でも有名な箇所、結婚式で読まれることがあるのでご存知の方も多いと思います。内容は、①愛がなければ（1-3節）、②愛の性質（4-7節）、③愛の永遠不滅性が述べられています。

まず、愛がなかったら人はどうなるのかについて考えて見ましょう。人は能力、知識、地位、善、正義、仕事、お金、安定を求めて生きています。もちろん向上心は人に欠かすことのできないことですが、自己本位（自己愛）からくるならば、それらは人を高慢にしてしまうものではないでしょうか。同じコリントの信徒への手紙で「知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる」とあるとおりです。だから愛、しかも自己愛でない「愛」がなければならぬわけです。

では、それはどういう「愛」かが、4-7節で述べられます。一言で言うならば「愛」とは、自己犠牲のことです。そして聖書は最高の「愛」として、イエス・キリストの十字架の愛を教えます。「イエスは、私たちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたし

たちは愛を知りました。」このイエス・キリストによって示された「愛」を求め、この「愛」で互いに愛し合うように、聖書は私たちを招いています。

私たちの愛は欠けの多いものです。報いられなければ、感謝されなければ、すぐにでも冷えてしまうものでありましょう。しかしこの「愛」は移ろったり、この世で終わってしまうったりことはありません。「信仰と希望と愛」は、神という永遠の次元で価値あるものとされているからです。この聖書箇所は、この歌以外にも、有名なところではブラームスの最晩年の曲「四つの厳粛な歌」の最後の曲でも歌われています。1896年彼は愛する妻クララ・シューマンを亡くし、一年もたたないうちに彼も亡くなるのですが、悲しみの中にあつて彼は、この聖書の箇所に記されている、「愛」の不滅性に慰めを受けたのであります。

ここに「最高の道」が示されています。この「愛」を求めようではありませんか。

(恵那キリスト教会牧師 草野誠)

